

1. 略歴

- 1993年4月 東京大学教養学部文科三類入学
1995年4月 東京大学文学部歴史文化学科美術史学専修課程進学
1997年3月 同上 卒業
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻美術史学専門分野修士課程入学
1999年3月 同上 修了
1999年4月 東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻美術史学専門分野博士課程進学
1999年4月 同上 退学
1999年4月 財団法人大和文華館学芸部員（～2004年9月）
2002年4月 神戸大学大学院文化学研究科客員助教授（～2004年9月）
2004年10月 文化庁文化財部美術学芸課文部科学技官（絵画部門）（～2009年6月）
2007年10月 文化庁文化財部古墳壁画室併任（～2013年9月）
2009年7月 文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官（絵画部門）（～2013年9月）
2013年10月 神戸大学大学院人文学研究科准教授
2016年11月 博士（文学）学位取得（東京大学）
2019年9月 コロンビア大学客員教授（～2019年12月）
2021年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 博士論文

『院政期仏画と唐宋絵画』、2016年、580p.

(2) 単著

『大和文華館の中国・韓国絵画』、大和文華館、2000年、71p.

『日本の美術 508 孔雀明王像』、至文堂、2008年、98p.

『院政期仏画と唐宋絵画』、中央公論美術出版、2015年、580p. (学位論文)

(3) 編著

『普賢菩薩の絵画 美しきほとけへの祈り』、大和文華館、2004年、123p.

『天皇の美術史 1 古代国家と仏教美術』（増記隆介責任編集）、吉川弘文館、2018年、236p. (第一章「正倉院から蓮華王院宝蔵へ 古代天皇をめぐる絵画世界」、pp.7-97)

『別冊太陽288 鳥獣戯画 決定版』（増記隆介監修）、平凡社、2021年、148p.

(4) 共著

『大和文華館の日本絵画』、大和文華館、2000年、73p. (「大和文華館の古代・中世絵画」、pp.41-56)

『国宝 寝覚物語絵巻』、大和文華館、2001年、179p. (担当箇所 pp.152-157, 165-168)

『国宝の美 絵画4：飛鳥・白鳳・奈良時代の絵画』（有賀祥隆編）、朝日新聞出版、2009年、36p. (担当箇所 pp.6-10)

『国宝の美 絵画6：仏教絵画2』（梶谷亮治編）、朝日新聞出版、2009年、36p. (担当箇所 pp.6-19, 28-31)

『美術出版ライブラリー 日本美術史』（山下裕二・高岸輝監修）、美術出版社、2014年、379p. (担当箇所 pp.72-75, 78-79, 82-83, 88-89, 96-103)

『教養の日本美術史』（古田亮編）、ミネルヴァ書房、2019年、432p. (「平安の日本美術」 pp.67-89)

(5) 学術論文

『複製画』と美術史教育』、『東京大学創立百二十周年記念東京大学展 学問の過去・現在・未来 第一部 学問のアーケオロジー』、東京大学、1997年、pp.496-499

『唐寅における李唐画学習の一側面』、『美術史論叢』第14号、東京大学大学院人文社会系研究科美術史学研究室、1998年、pp.167-178

『東京国立博物館普賢菩薩絵像の図像と表現』、『美術史』第149冊、美術史学会、2000年、pp.13-27

『南都眉間寺旧蔵羅漢図試論』、『大和文華』第106号、大和文華館、2001年、pp.7-23

『奈良国立博物館所蔵普賢十羅刹女像について』、『鹿園雑集』第5号、奈良国立博物館、2003年、pp.1-28

- 「我が国における普賢十羅刹女像の成立と展開」、『人文知の新たな総合に向けて/21世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」第1回報告書』、京都大学大学院文学研究科、2003年、pp.258-260
- 「和装十羅刹女像の図像形成に関する研究」、『鹿島美術研究』年報第21号別冊、鹿島美術財団、2004年、pp.140-150
- 「益田家旧蔵『普賢十羅刹女像』について」、『美術史家大いに笑う 河野元昭先生のための日本美術史論集』、ブリュッケ、2006年、pp.243-260
- 「山梨県一蓮寺所蔵『絹本着色釈迦三尊十八羅漢図』について—その東アジア絵画史上の位置」、『佛教藝術』第312号、毎日新聞社、2010年、pp.75-103
- 「和装羅刹女像の生成—宋と日本への二つのヴィジョン」、『死生学研究』第14号、東京大学大学院人文社会系研究科、2011年、pp.101-120
- “The Creation of the Japanese Rakshasa Woman: Two Visions toward Song China and Japan”, *Bulletin of Death and Life Studies*, 8, The University of Tokyo, 2012, pp.96-116 (上記の英語版)
- 「紙本白描心現観音図について—その原本の絵画史上の位置」、『かがみ』第42号、大東急記念文庫、2012年、pp.21-69
- 「高山寺仏眼仏母像研究序説」、有賀祥隆先生古稀記念論文集『東洋日本美術史と現場』、竹林舎、2012年、pp.36-50
- 「永保寺所蔵絹本着色千手観音像について—『天竺観音』との関わりを中心に」、『仏教美術史論集』第一巻・様式論、竹林舎、2012年、pp.248-265
- 「安田靫彦『黄瀬川陣』における古典学習」、『美術史歴参 百橋明穂先生退職記念献呈論集』、中央公論美術出版、2013年、pp.81-99
- 「『心現観音図』と五台山図」、『美術史論集』第14号、神戸大学美術史研究会、2014年、pp.1-22
- 「五台山と金峯山—『心現観音図』からわかること」、科学研究費基盤研究(B)『東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態』報告書(研究代表者・稲本泰生)、京都大学人文科学研究所、2016年、pp.89-111
- 「後白河院政期における天平絵画及び唐宋絵画の受容に関する調査研究」、『鹿島美術研究』年報第33号別冊、鹿島美術財団、2016年、pp.135-145
- 「十世紀の画師たち—東アジア絵画史から見た『和様化』の諸相」、『美術研究』第420号、東京文化財研究所、2016年、pp.1-30
- 「病草紙と唐宋絵画」、『病草紙』、中央公論美術出版、2017年、pp.201-214
- 「奮然が見た唐宋絵画—平安後期絵画史の前提として」、『グレートブッダシンポジウム報告書第15冊 日宋交流期の東大寺』、法蔵館、2017年、pp.53-67
- 「高麗仏画における密教像」、『アジア仏教美術史論集 東アジアVI 朝鮮半島』、中央公論美術出版、2018年、pp.449-476
- 「大徳寺五百羅漢図の母胎としての呉越絵画—日本伝来の白描図像を中心に」、九州大学人文学部学際融合リサーチハブ形成型研究報告書『徹底討論 大徳寺伝来五百羅漢図の作品誌 地域社会からグローバル世界へ』、九州大学、2019年、pp.33-59
- “Underlying the ‘visions’ of Heian Buddhist Paintings: The Flames of the Shōren’in *Ao Fudō* and White Gemstone Body of the Tokyo National Museum *Fugen Bosatsu*”, *Kobe Review of Art History*, Vol.20, 2020, pp.1-17
- 「平安時代の仏画制作とその修理」、『日本の表装と修理』(岩崎奈緒子他編)、勉誠出版、2020年、pp.229-264
- 「普賢菩薩の聖と俗 東京国立博物館普賢菩薩像の淡墨線をめぐって」、『日本美術のつくり方 佐藤康宏先生の退職によせて』、羽鳥書店、2020年、pp.3-29
- 「仁和寺孔雀明王象とその周辺」、『アジア仏教美術論集 東アジアIII 五代・北宋・遼・西夏』、中央公論美術出版、2021年、pp.267-297

(6) 翻訳

- アルフリーダ・マーク「蔬菜のイコノグラフィーに関するノート」(英文)、『大和文華』第102号、大和文華館、1999年、pp.25-54
- 許棟「敦煌新様文殊画像中の于闐王及びその相関問題についての研究」(中文・田林啓と共訳)、『美術史論集』第15号、神戸大学美術史研究会、2015年、pp.41-59

(7) 解説等

- 「眉間寺旧蔵羅漢図について」、『美のたより』第129号、大和文華館、1999年、pp.7-8
- 「大和文華館の中国絵画」、『美のたより』第132号、大和文華館、2000年、pp.7-8
- 「狩野源七郎筆『叭々鳥図』」、『大和文華』第104号、大和文華館、2000年、pp.27-29
- 「十羅刹女の描かれた扉絵」、『美のたより』第137号、大和文華館、2002年、pp.7-8

- 「白描大威徳明王図像について」、『美のたより』第139号、大和文華館、2002年、pp.7-8
- 「院政期絵画にみる梅花」、『美のたより』第141号、大和文華館、2003年、pp.7-8
- 「国宝『一字蓮台法華経』見返絵をめぐる」、『美のたより』第143号、2003年、pp.7-8
- 「張風『賞楓図』をめぐる」、『美のたより』第145号、2004年、pp.5-6
- 「鳥取三仏寺蔵『線刻胎蔵界曼荼羅中台八葉院鏡像』をめぐる」、『美のたより』第148号、2004年、pp.5-6
- 「菩薩形坐像」、『國華』第1313号、國華社、2005年、pp.54-56
- 「文化財鑑賞の手引き 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 第23回 仏画（仏教絵画）の線描」、『文化庁月報』第437号、ぎょうせい、2005年、p.33
- 「口絵解説 百犬図 伊藤若冲筆」、『月刊文化財』第508号、第一法規、2006年、p.2
- 「文化財鑑賞の手引き 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 第35回 平安絵画に見る梅花の表現」、『文化庁月報』第449号、ぎょうせい、2006年、p.35
- 「仁和寺蔵孔雀明王像」、『國華』第1329号、國華社、2006年、pp.33-36
- 「文化財鑑賞の手引き 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 第41回 仏像を描いた仏画」、『文化庁月報』第455号、ぎょうせい、2006年、p.35
- 「船中湧現のほけ一入唐求法をめぐる絵画一」、『月刊文化財』第520号、ぎょうせい、2007年、pp.36-39
- 「壁画に関する二、三の新知見」、『月刊文化財』第532号「高松塚古墳壁画特集」、ぎょうせい、2008年、pp.46-49
- 「文化財鑑賞の手引き 国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法 第65回 画家とコレクション」、『文化庁月報』第479号、2008年、p.35
- 「鼎談 孔雀明王像を見ながら 仏画研究の展望」（吉村稔子・大原嘉豊との鼎談）、『日本の美術508 孔雀明王像』、至文堂、2008年、pp.85-98
- 「釈迦靈鷲山説法図」、『國華』第1360号、國華社、2009年、pp.17-19
- 「文化芸術への誘い 第20回 孔雀明王像の諸相」、『文化庁月報』第495号、2009年、pp.32-33
- 「長沢蘆雪筆『絹本墨画宮島八景図』をめぐる」、『月刊市町村教委』第221号、ぎょうせい、2009年、pp.22-23
- 「高松塚古墳壁画の模写」、『文化庁月報』第494号、ぎょうせい、2009年、pp.20-21
- 「座談会 南都仏教と鎌倉彫刻」（瀬谷貴之・横内裕人・川瀬由照・井上大樹・奥健夫との座談会）、『日本の美術536 奈良の鎌倉時代彫刻』、ぎょうせい、2011年、pp.83-94
- 「講演録 後世に価値を伝えるということ―地域文化財インテグレーションの役割」、『地域と文化財―ボランティア活動と文化財保護』、勉誠出版、2013年、pp.140-151
- 「平清盛をめぐる法華経信仰と海上交易」、『新発見 週刊日本の歴史』18、朝日新聞出版、2013年、p.30
- 「技法から見た平安仏画の展開―仏画鑑賞の一助として」、『日本美術全集5 平安時代Ⅱ王朝絵巻と貴族のいとなみ』、小学館、2014年、pp.200-202
- 「二つの古墳壁画―高松塚古墳とキトラ古墳」、『日本美術全集1 日本美術創世記』、小学館、2015年、pp.206-209
 (作品解説)「71 後白河法皇像」「72 後白河法皇像」「111 普賢十羅刹女像」「112 普賢十羅刹女像」『日本美術全集8 鎌倉・南北朝時代Ⅱ 中世絵巻と肖像画』、小学館、2015年、p.244、p.263
- 「2015年歴史学界 回顧と展望 古代(美術史)」、『史学雑誌』第125編第5号、史学会、2016年、pp.68-72
- 「童子経曼荼羅圖(智積院)」、『國華』1445号、國華社、2016年、pp.53-55
- 「『天皇と美術』という視点」、『本郷』第133号、吉川弘文館、2018年、pp.8-10
- 「座談会 法隆寺金堂壁画をめぐる―壁画研究の現状と課題(有賀祥隆・梶谷亮治・川瀬由照・清水重敦・肥田路美・藤岡穰との座談会司会)」、『仏教芸術』創刊号、仏教芸術学会、2018年、pp.19-63
- 「新刊紹介 大西磨希子『唐代仏教美術史論攷』」、『唐代史研究』21号、唐代史研究会、2018年、pp.211-214
- 「見えない『おそれ』を可視化すること 山本聡美『中世仏教絵画の図像誌』」、『図書新聞』3456号、武久出版、2020年
- 「鳥獣戯画をみる前とみた後に 伊藤大輔『鳥獣戯画を読む』」、『図書新聞』3491号、武久出版、2021年

(8) 展覧会企画

- 「墨絵の美」、大和文華館、2000年
- 「大和文華館の中国・韓国絵画」、大和文華館、2000年
- 「特別展 国宝寝覚物語絵巻」、大和文華館、2001年
- 「墨絵の美」、大和文華館、2002年
- 「仏教の美術」、大和文華館、2002年
- 「国宝『寝覚物語絵巻』と平安・鎌倉の美術」、大和文華館、2003年
- 「梅の美術」、大和文華館、2003年

「明清の美術」、大和文華館、2004年
「特別展 普賢菩薩の絵画」、大和文華館、2004年

(9) 学会発表等

- “A History of the Nirvana Painting at Mt. Kōya”, 第6回日本美術に関する国際大学院生会議 (JAWS)、Princeton University, Princeton, New Jersey, U.S.A., 1998年3月13日
- 「東京国立博物館普賢菩薩像の表現技法について」、第52回美術史学会全国大会、愛媛県民文化会館、1999年5月29日
- 「我が国における普賢十羅刹女像の成立と展開」、京都大学21世紀COEプログラム規範性と多元性の歴史的諸相研究会、京都大学文学部、2003年6月21日
- 「平安時代における法華経絵の展開とその東アジア絵画史上の位置」、第53回東文研セミナー、東京大学東洋文化研究所、2003年12月4日
- 「和装十羅刹女像の図像形成に関する研究」、鹿島美術財団研究発表会、鹿島K1ビル、2005年5月13日
- 「和装羅刹女像の生成—宋と日本への二つのヴィジョン」、東京大学21世紀COEプログラム国際シンポジウム「死生と造形文化Ⅲ イメージとヴィジョン 東西比較の試み」、東京大学、2011年2月13日
- 「平安仏画における水墨技法の受容をめぐる諸問題 (招待講演)」、第46回全国国宝重要文化財所有者連盟文化財講演会、赤坂日枝神社、2014年12月4日
- 「五台山と金峯山—『応現観音図』からわかること」、東アジア仏教美術における聖地表象の諸様態国際ワークショップ、京都大学人文科学研究所、2015年3月28日
- 「装飾経における『見立て』—『久能寺経』と『平家納経』を中心に」、神戸大学北京外国語大学学術連携拠点設立記念シンポジウム、神戸大学、2015年7月18日
- 「十世紀の画師たち—東アジア絵画史から見た『和様化』の諸相」、東京文化財研究所オープンレクチャー、東京文化財研究所、2015年10月30日
- 「青蓮院『不動明王二童子像 (青不動)』与唐宋絵画—従風格史的観点」交流与伝播国際学術研討会、国立台南芸術大学、嘉義市、台湾、2015年11月6日
- 「奮然が見た唐宋絵画—平安後期絵画史の前提として」、グレートブッダシンポジウム「日宋交流期の東大寺—奮然上人一千年大遠忌にちなんで」、東大寺、2016年11月27日
- 「研究発表と座談会 平安時代後期を中心とした絵師の工房をめぐる諸問題 (座談会司会)」、仏教美術研究上野記念財団助成研究会、京都国立博物館、2017年7月16日
- 「孔雀明王造像の展開 唐・宋・日本」、日本仏教総合研究学会、東京大学史料編纂所、2017年7月30日
- Closing Lecture, “Colors and Techniques of Buddhist paintings in Heian period”, International workshop of Ph.D. candidate of Japanese studies in Budapest, Novotel Budapest, Hungary, 2018年2月4日
- “Underlying the “Vision” of Heian Buddhist painting”, *Movement and Materiality in Japanese Art*, Mary Griggs Burke Center for Japanese Art in Columbia University, New York, U.S.A., 2018年3月10日
- 「『平家納経』と『源氏物語』—古典としての藤原道長」、国際シンポジウム「Frame and Framings in a transdisciplinary perspective (フレームの超域文化学—フレームとしての古典)」、日本台湾交流協会台北事務所、台北市、台湾、2018年3月25日
- 「『五百羅漢図』の母胎としての呉越絵画—日本伝来の白描図像を中心に」、国際シンポジウム「徹底討論 大徳寺伝来五百羅漢図 地域社会からグローバル世界へ」、九州大学、2018年6月2日
- 「高松塚古墳壁画と唐代絵画」、西安外国語大学日本文化経済学院東北亜細亜研究中心系列学術講座、西安外国語大学、西安市、中国、2018年10月23日
- 「『応徳涅槃図』再考 原本の存在とその絵画的な位置」、アジアにおける仏伝表象の諸様態ワークショップ、京都大学人文科学研究所、2018年12月23日
- 「平安末期における『高雄曼荼羅』の模本制作と文覚・明恵」、「古社寺保存法の時代」展シンポジウム「政権と文物の歴史的諸相」、京都文化博物館、2019年1月6日
- “Myōe as Kūkai: The Buddhacani Painting in Kōsanji and Myōe’s Image-building Strategy”, Mary Griggs Burke Center for Japanese Art in Columbia University, New York, U.S.A., 2019年11月21日
- 「宋代仏画の『展開点』としての清浄華院『阿弥陀三尊像』 見える画像から見えない画像へ」、京都大学人文科学研究所「見える」「見えない」共同研究班研究会、京都大学人文科学研究所、2020年8月22日
- 「鳥獣戯画とは何か」、神戸大学美術史研究会総会、神戸大学、2021年2月16日

「ガラス乾板から再現された法隆寺金堂壁画の美」、法隆寺講演会「国宝・法隆寺金堂の謎に迫る」、大阪・中之島会館、2021年2月20日

(10) 受賞歴

2005年5月 鹿島美術財団賞優秀者、鹿島美術財団
2017年4月 中国国家優秀自費留学生賞感謝状、中国国家留学基金管理委員会
2020年11月 神戸大学優秀若手研究者賞神戸大学、神戸大学

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

奈良教育大学 (2001～2004年)
日本女子大学 (2011～2013年)
関西学院大学 (2016年)
東京大学 (2017年)
九州大学 (2017年)
京都市立芸術大学 (2016年～現在)

(2) 学会

美術史学会常任委員 (2014年～2017年、2020年～現在)、『美術史』西支部編集事務局担当委員 (2016年～2017年)
東方学会会員 (2015年～現在)
日本仏教総合研究学会評議員 (2017年～現在)
仏教芸術学会運営委員 (2019年～現在)、『仏教芸術』編集委員 (2019年～現在)
第11回日本美術に関する国際大学院生会議 (JAWS) (於ハーバード大学) 組織委員・実行委員 (2016～2017年)
第12回日本美術に関する国際大学院生会議 (JAWS) 組織委員・実行委員 (2018年～現在)

(3) 社会貢献等

文化庁文化財買取評価員 (2015年度)
文化庁「高松塚古墳壁画保存管理施設 (仮称) の設置にかかる基礎調査」ワーキンググループ委員 (2020年～現在)
文化庁・宮内庁・読売新聞社「紡ぐプロジェクト」文化財修理補助事業審査委員 (2019年～現在)
徳島県教育委員会「あわの至宝」調査研究委員会委員 (2017年～現在)
京都府暫定登録文化財調査主任調査員 (2017年～現在)
兵庫県文化財保護審議会委員 (2016年～現在)
滋賀県文化財保護審議会委員 (2019年～現在)
神戸市文化財保護審議会委員 (2015年～現在)
神戸市立博物館リニューアル検討委員会委員 (2015年度)
兵庫県香美町歴史文化構想委員会委員 (2017年～現在)
京都国立博物館調査員 (2015年～現在)
東京国立博物館列品等修理請負候補者選定委員会委員 (2014・2015年度)
京都国立博物館列品等修理請負候補者選定委員会委員 (2016年度)
九州国立博物館列品等修理請負候補者選定委員会委員 (2016・2017年度)
奈良国立博物館文化財買取協議会委員 (2017年度・2018年度)
京都国立博物館文化財買取評価員 (2019年度)
九州国立博物館文化財買取評価員 (2019年度)
東京国立博物館 国宝「普賢菩薩像」修理委員会委員 (2019年～現在)
法隆寺金堂壁画保存対策検討会ワーキンググループ委員 (2016年～現在)、同美術史班座長 (2020年～現在)